

ラスリテック[®]点滴静注用1.5mg の調製及び投与法

1 本剤1バイアルを添付溶解液1アンプルで溶解します。(調製液のラスプリカーゼ濃度は1.5mg/mLになります)

ラスリテック[®]点滴静注用1.5mg
(バイアル)

添付溶解液1.0mL
(アンプル)



ラスリテック[®]点滴静注用7.5mg
(バイアル)

添付溶解液5.0mL
(アンプル)



- 溶解する際には、泡立てないように穏やかに溶解してください。
- 溶解後に著しい沈殿の認められるものは使用しないでください。

2 患者の体重に合わせて調製液を必要量抜き取り、生理食塩液50mL*で希釈します。

- 溶解後は速やかに生理食塩液に混和してください。
- 希釈時にブドウ糖液を使用しないでください。

本剤の投与量及び調製液の必要量の算出方法

本剤の投与量(mg) = 体重(kg) × 0.20(mg/kg)
調製液の必要量(mL) = 投与量(mg) / 1.5(mg/mL)

★月齢24ヵ月以下の患者の場合

本剤の希釈に用いる生理食塩液を10mLまで減らすことができます。

例：調製液の必要量

体重	ラスリテック投与量	調製液の必要量
5.0kg	1.0mg	0.7mL
10.0kg	2.0mg	1.3mL
20.0kg	4.0mg	2.7mL
30.0kg	6.0mg	4.0mL
40.0kg	8.0mg	5.3mL
50.0kg	10.0mg	6.7mL
60.0kg	12.0mg	8.0mL
70.0kg	14.0mg	9.3mL

3 1日1回30分以上かけて点滴静注します。

- 本剤を投与する際には、フィルターを使用しないでください。

4 生理食塩液と混和した後は速やかに使用し、残液は廃棄してください。

- 溶解及び希釈後にやむを得ず保存する場合には、2~8℃で保存し、24時間以内に使用してください。

5 本剤は他の併用薬の点滴ラインとは別のラインで投与してください。

- 別のラインが使用できない場合は、本剤投与前に生理食塩液でラインを十分に洗浄してください。

ラスリテック患者チェックシート

投与前の
注意事項

このチェックシートはラスリテックを投与する前に、本剤が禁忌の患者さんか、又は慎重に投与する必要のある患者さんかを確認するために作成しました。これらの情報を参考に、ラスリテック投与の可否を判断してください。

●グルコース-6-リン酸脱水素酵素(G6PD)欠損など(重篤な溶血性貧血が起こるおそれがある)

チェックポイント	本剤投与の可否	
本人がG6PD欠損などの赤血球酵素異常症と診断されたことがありますか	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> はい → 本剤の投与は禁忌です。他の治療法をご検討ください。
G6PD欠損などの赤血球酵素異常症と診断された家族がいますか	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> はい → 溶血性貧血があらわれるおそれがあるので、本剤を投与される際は、患者の状態を十分に観察し、貧血症状が認められた場合は本剤の投与を直ちに中止し、適切な処置を行ってください。
本人又は家族で薬剤投与*により溶血性貧血が発現したことがありますか	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> はい →

*G6PD異常症の患者さんに投与した場合、溶血を惹起する可能性のある薬剤(「赤血球 医学書院; 1998; 195-212」一部改変)

・確実な薬剤………スルファメトキサゾール、ナリジクス酸

・可能性のある薬剤……クロラムフェニコール、ビタミンKアナログ

・疑わしい薬剤………スルファジアジン、アセトアミノフェン、アスピリン、ビタミンC、ジメルカプロール、ドキシルピシン、プロベネシド

G6PD欠損症は通常は無症状ですが、薬剤、細菌感染症、ソラマメなどのきっかけで赤血球膜が破壊されて、赤血球の破壊=溶血を起こす疾患です。

●アナフィラキシーショックを含む重篤な過敏症(重篤な過敏症が起こるおそれがある)

チェックポイント	本剤投与の可否	
本剤の成分に対して過敏症の既往歴がありますか	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> はい → 本剤の投与は禁忌です。他の治療法をご検討ください。
アレルギーを起こしやすい体質ですか	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> はい → アナフィラキシーショックを含む重篤な過敏症があらわれることがありますので、本剤を投与される際は、このような症状が認められたら本剤の投与を直ちに中止し、適切な処置を行ってください。

●再投与(抗ラスブリカーゼ抗体が産生されているおそれがある。有効性、安全性が確立していない)

チェックポイント	本剤投与の可否	
以前、本剤を投与したことがありますか	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> はい → 重篤な過敏症が発現する可能性がありますので、再投与は推奨しません。

ラスリテック投与後の尿酸測定用サンプルの取扱いについて

ラスリテック投与後、尿酸測定用に採血する場合は、血液検体をあらかじめ冷却した試験管に入れ、氷浴等で速やかに低温状態にした上で保存し、採血後4時間以内に測定してください。

採取した血液検体を室温に放置することにより本剤が尿酸を分解し、見かけ上の尿酸値が低くなります。



製造販売: **サノフィ株式会社**

〒163-1488

東京都新宿区西新宿三丁目20番2号

詳しくは製品情報
サイトをご覧ください。

e-MR

e-MR

検索